

2019年(令和元年)11月18日(月曜日) (2)

第14回OCHISセミナー 働き方改革の対応で 運転者の健康管理を

運輸業界の健康起因事

故防止活動を推進するN

P.O法人ヘルスケアネット

トワーク(理事長・武田

裕大阪大学名誉教授、O

CHIS)は7日、14回

目となる「OCHISセ

ミナー」を大阪市の大阪

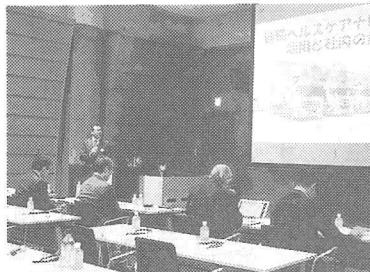
大学中之島センターで開

催。トラック、バス、タ

クシーのほか医療関係者

らが多数出席した。

今回のテーマは「安全」。



自社の取り組み事例を紹介する事例報告では、事例報告で中山学常務が運輸ヘルスケアナビシステムの活用と社内の意識変化について語り、両社とも診断結果の見える化の効用を説いた。

基調講演では国土交通省の石田勝利安全政策課長と全下協の大西政弘交通・環境部長が健康起因事故の実態説明やドライバーの健康管理の重要性を説いた。国交省の事業用自動車健康起因事故対

策協議会座長で大原記念労働科学研究所の酒井一博氏も、事故調の分析で明らかになった事故パターンを示して安全・健康対策への3つのアプローチを紹介した。

この中で酒井氏が説明した3つのアプローチは、①働き方改革の展開で労働時間の適正把握、休日・休暇の確保、残業の36協定届出、②健康管理の強化としてボビュレーション・ストラテジー(元気な運転者を増やす)とハイリスク・ストラテジー(有所見者を減らす)、③疲労マネジメントの導入・実践だった。いずれも各ドライバーの健康診断結果を放置せずに健康の維持、改善に向けての事業者の役割が重要で、集団や個人へのアプローチに向けて運輸ヘルスケアナビシステムとの連携が最適との考え方を示した。

自社の取り組み事例を紹介する事例報告では、事例報告で中山学常務が運輸ヘルスケアナビシステムの活用と社内の意識変化について語り、両社とも診断結果の見える化の効用を説いた。

基調講演では国土交通省の石田勝利安全政策課長と全下協の大西政弘交通・環境部長が健康起因事故の実態説明やドライバーの健康管理の重要性を説いた。国交省の事業用自動車健康起因事故対

策協議会座長で大原記念労働科学研究所の酒井一博氏も、事故調の分析で明らかになった事故パターンを示して安全・健康対策への3つのアプローチを紹介した。

この中で酒井氏が説明した3つのアプローチは、①働き方改革の展開で労働時間の適正把握、休日・休暇の確保、残業の36協定届出、②健康管理の強化としてボビュレーション・ストラテジー(元気な運転者を増やす)とハイリスク・ストラテジー(有所見者を減らす)、③疲労マネジメントの導入・実践だった。いずれも各ドライバーの健康診断結果を放置せずに健康の維持、改善に向けての事業者の役割が重要で、集団や個人へのアプローチに向けて運輸ヘルスケアナビシステムとの連携が最適との考え方を示した。

自社の取り組み事例を紹介する事例報告では、事例報告で中山学常務が運輸ヘルスケアナビシステムの活用と社内の意識変化について語り、両社とも診断結果の見える化の効用を説いた。